

# ドイツ人にとって「クラブ」とは何か

## ドイツ人にとってクラブとは「交流」

私がドイツのスポーツクラブの視察を通じて感じたのは、「クラブ」という概念が日本のそれとは異なっている、ということである。かつて、ベースボールと野球とは違うという内容の本が書かれたことがあったが、外国人が野球から受けた衝撃と、私がドイツのクラブを訪問して受けた違和感とはおそらく同じ種類のものだと思う。

ドイツ人が「クラブ」という言葉から連想するイメージと、日本人が「クラブ」から想像するものとは、おそらくその中身が違うのだ。たとえ我々のような総合型地域スポーツクラブに携わる人間であったとしても、その認識の差は決して小さくないように思われる。

というのも、私が感じたドイツの各スポーツクラブの印象を一言で表すと、「スポーツ」ではなく「交流」であるからだ。私の眼には、スポーツを目的に設立されたクラブでありながら、スポーツそのものよりも会員同士の「交流」の方が重んじられているかのように感じられたのだ。

この「交流」という要素については、クラブ設立によるメリット、いわば副産物として語られる事が多く、「交流」それ自体がクラブの存在理由である、とまで主張される事は無かったように思われる。ただ、総合型地域スポーツクラブというネーミングの「地域」に焦点を当てたとき、現代の日本が抱えている社会問題、少子高齢化や家庭崩壊、地域コミュニティの不在や限界集落などの問題を解決する可能性が、この「交流」とは切っても切れない関係の「クラブ」にあることを、今回の研修を通して私は改めて気づかされた。



ドイツのクラブハウスでの研修風景

## 社会性をもった新しい集団としてのクラブ

かの地の社会学者テンニースは、人間社会が血縁・地縁などによって自然発生的に形成した家族や村落などの社会集団「ゲマインシャフト」(共同社会)から、特定の目的や利害関係によって形成された企業や都市や国家などの社会集団「ゲゼルシャフト」(利益社会)へと変遷していくと考えた。事実、21世紀に突入した現代、家庭という血縁関係や地域社会は徐々にその姿を変えつつある。

その一方で、利益中心の社会集団にしても構成員の帰属意識は弱まっている。そもそも人間のより豊かな暮らしのためにゲマインシャフトやゲゼルシャフトが形成されてきたはずが、今やどの単位の集団においても将来的な破綻の可能性を誰もが感じており、家庭や地域、学校や会社はもちろん、地方公共団体や国家という巨大な存在でさえも、先の見えない不透明さに包まれている。

しかし、この閉塞状況にあるとも言えるそれぞれの社会集団の良い部分、つまり濃密な人間関係を保持しつつも個々の自立と尊重を旨とし、公益という目的達成のために互いに協力して問題を解決していく、そのような特性を持った新しい社会集団が「クラブ」なのではないだろうか。

同好の士が集団を形成し、自分たちを律し、自己を満足させると共に地域にも有用な活動を受益者負担で行い、そこには会員同士はもちろん地域との交流も生まれ、行政や体育協会がそれらをサポートする。そのようにして誕生したドイツの「クラブ」は、社会性を持った集団であり、社会的存在であり、社会そのものである。だからこそ、ケルン体育大学のリットナー教授は「地域における重要な『社会資本』になっている」と評価していた。

## クラブから生まれるドイツ人の強い誇り

つまり、「クラブ」の役割は単なるスポーツの場の提供に留まらない。その役割とは、ゆりかごから墓場までの全世代の社会性を維持し、地域の交流が生まれる核となる事である。「クラブ」によって子どもは社会を学び、大人は地域を大切に、お年寄りも孤独とは無縁となる。そんな「交流」を大切にするドイツの「クラブ」には、自立心とボランティア精神とが満ちており、また、そこから生まれる強い誇りを感じた。これらの理念があるからこそ、ドイツにおいては「クラブ」が道路や水道、通信、学校や病院、役所などと同様、地域に無くてはならない社会基盤であると認識されている。(辻 正彦 香南ししまるスポーツクラブ 事務局書記)

シニア世代スポーツクラブの役員の方々と  
ドイツボリング「ケーゲル」で交流



講義の一場面  
(右手をやや挙げて質問している方が筆者)



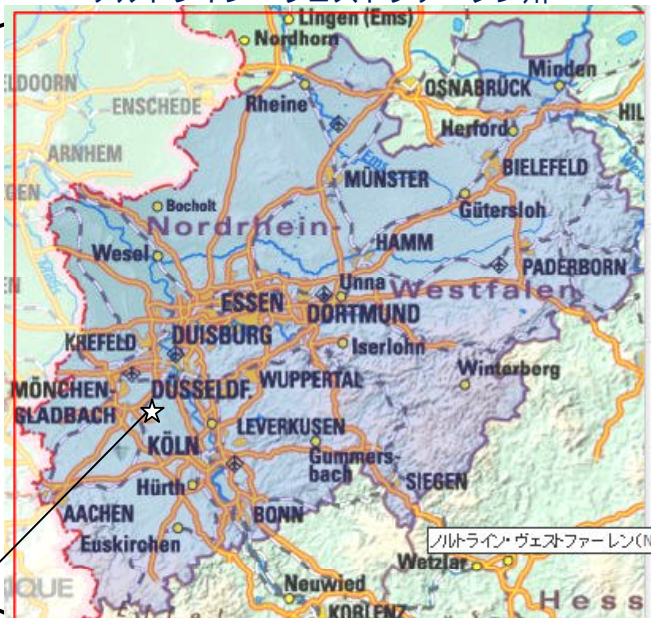
### <ドイツ研修について>

財団法人日本体育協会クラブマネジメント指導者海外研修事業を今年度より toto 助成事業として実施。全国より集まった 15 名の団員を 10/27~11/2 の期間でドイツ連邦共和国 ノルトライン・ヴェストファーレン州 ライン・ノイス郡 グレーベンプロイヒ市へ派遣し、現地での地域スポーツクラブに関する講義・クラブ視察による研修を行った。

### ドイツ連邦共和国



### ノルトライン・ヴェストファーレン州



グレーベンプロイヒ市 ( Grevenbroich )

## 【香南ししまるスポーツクラブ・プロフィール】

### 1．設立

設立：平成 17 年 12 月

経緯：高松市との合併に際して、旧香南町体育指導委員の減員や体育協会事務局の機能低下によりスポーツを通じて健康増進を図る住民サービスが懸念される、また地域の体育施設を必ずしも地域住民が利用できるとは限らない、等など様々な問題が予想され、その解消を目指して体育指導委員が中心になって設立。現在設立 5 年目。

### 2．地域

地域：高松市香南地区

地区人口：約 8,000 人 世帯数 約 2,500 世帯

地区特性：高松市南西の丘陵部に位置する田園地帯。平成元年に高松空港が開港してからは様々な企業も進出しているものの、農地面積が 5 割近くを占めており、200 を越えるため池の存在もあって昔ながらののどかな風景が広がっている。小学校と中学校が各 1 校。新しい団地に移住してきた新住民も増えているが、旧住民の世帯においては 3 世代 4 世代の同居も珍しくはない。昭和 50 年代からスポーツ少年団が盛んに活動しており、どの年齢層にも運動好きが多い。

### 3．クラブ

会員数：387 名（平成 21 年 12 月末現在）

特徴：市当局との粘り強い話し合いの結果、新しく建設された中学校体育館の事務室を中心にクラブスペースとして使用。指導者なしで経験者を中心に自主運営の「スポーツサークル」と、指導者がいる「スポーツ教室」とに分かれている。各サークル・教室から運営委員 1 名を選び、運営委員会を毎月開いてクラブの方針を決定。「無理をしない」「赤字を出さない」がモットー。各運営委員は、会場使用料や備品、消耗品などの出費と参加人数を検討した上で 1 人当たりの参加費を設定。キンボールやミニテニス、セパタクローなど他でやっていないニュースポーツを通じてスポーツ人口を増やそうと頑張っている。

予算規模：573 万円

### 4．連絡先・事務局

〒761-1402 香川県高松市香南町由佐 1464 太田方

TEL 090-8691-8829 FAX 087-879-1057

URL <http://kounan.ashita-sanuki.jp/>

E-mail [tjmskh@gmail.com](mailto:tjmskh@gmail.com)